

乳がん高度検診・治療センター NEW—す NO.45

2018.2

乳がん術後の放射線療法中に注意していただきたいこと — 一般に軽度ですが放射線療法にも副作用があります

乳がんの術後、乳房温存療法後には原則として全例に、また乳房切除術後には一部の進行例に対して、それぞれ残った乳房や胸壁に放射線療法が必要となります（乳がん高度検診・治療センターNEW—す No.15参照）。一般に放射線療法の副作用は軽度ですが、以下のようなものがあることを覚えておいてください。今回は乳がん術後放射線療法で起こりうる副作用と、その予防策について解説します。

<放射線療法の急性障害と晩期障害>

急性障害としては、照射している部位での皮膚炎や宿酔などがみられます。特に、他の副作用と異なり、皮膚に関する副作用は多くの方で起こります（他の副作用は起こらない方が多い）。症状が強い時には、薬を処方いたしますので、自己判断で薬や化粧品類を塗布するのは止めてください（金属成分の入ったものを塗布して放射線療法を受けると、強い皮膚炎が出現します）。

晩期障害は、起こる方は少ないものの、肺炎などが起こりえます。咳が続くなどの症状があれば、遠慮なくご相談ください。

	障害	症状	備考
急性障害	皮膚炎	赤い、ヒリヒリ・チクチクする 	衝撃が加わらないようにしてください。入浴時、手に石鹸を泡立てて優しく洗ってください。ワイヤー付きの下着は着用しないでください（スポーツブラを推奨）。プールや強酸性の温泉は控えてください。
	発汗低下	皮膚の乾燥	保湿を心がけてください。
	食道炎	飲み込み時の痛み	刺激物（唐辛子等）の摂取や飲酒は控えてください。
	宿酔	倦怠感、眠気など 	無症状～軽度なものがほとんどです。眠気があるときは車の運転は控えてください。
晩期障害	肺炎 	痰が絡まない咳、微熱 	3～12ヶ月後に起こることがあるが、1～2%と珍しい。空咳が1週間以上続くときは受診してください。
	硬化・委縮	皮膚や皮下組織が硬くなる	適度に腕を動かすようにしてください。動かすすぎると浮腫の原因になるので注意してください。

<放射線療法中は禁煙を守ってください>

タバコは放射線療法の大敵です。放射線療法によってがん細胞にダメージを与えるためには酸素が必要となりますが、喫煙は、酸素運搬を妨げるため、治療効果を低下させると言われています。さらに、喫煙により、副作用のリスクは上昇し、その症状が強くなるとも言われています。喫煙中の方は、放射線療法を受ける際、必ず禁煙をしてください。

さらに詳しくお知りになりたいことがありましたら乳がん高度検診・治療センターまたは放射線科にお問い合わせください。

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

放射線科 安西 誠

KAZUKA